

2019.08.08

InterRisk Thai Flood Report <2019 No.02>

タイの洪水関連情報

概要

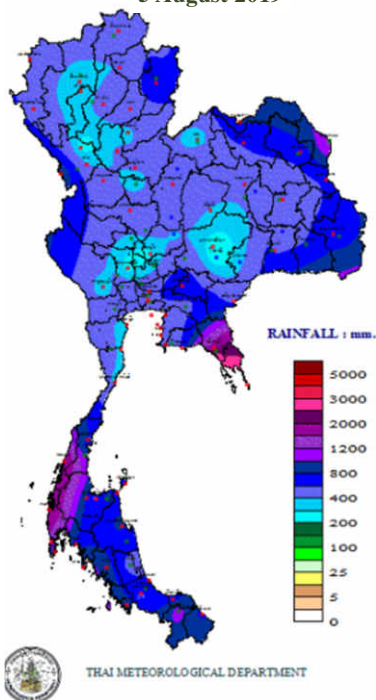
- ✓ エルニーニョ現象の影響で、今年の5月～7月の降雨量は平年の降雨量を10%下回っており、主要ダムの貯水量は著しく減少しています。
- ✓ タイ気象局によれば、5月20日の雨期開始以降、今年は過去30年間で最も干ばつが懸念される状況です。主な要因はエルニーニョ現象の影響であり、降雨量の減少に加えてタイ全土の気温が平年より1～2℃高くなっていることから、ダムなどの貯水システムからの蒸発量が増加しています。
- ✓ 現時点の大型ダム（全国35か所）における合計貯水率は48%、その他の中小規模ダムの貯水率は30%を下回っています。主要ダム（Sirikit、Bhumibol、Pasak、Kwaenoi）における合計貯水量は約80億m³ですが、2019-2020年の乾季における農業や飲料水等にかかる推定消費量は120億m³であり、水需要を満たすためには約40億m³の積み増しが必要です。
- ✓ 既に干ばつによる被害が発生しており、1,341km²の農地で影響が出ています。特に被害が大きな地域はタイ北部と北東部です。最も大きな影響を受けているのは稲作で推定被害は75億バーツ（656km²）、トウモロコシ、サトウキビ、タピオカ農場が続き、農業全体の推定損害額は98億バーツに達します。降雨の少ない状況が9月まで継続すると、コメの栽培サイクル全体に影響が及ぶため、被害額が370億バーツまで拡大し、GDPが0.1%低下（3.0%→2.9%）するとの試算もあります。

降雨量

- ✓ 下図は2019年1月1日～8月5日の累積降雨量（左）と、累積降雨量の平年（直近30年の平均降雨量）との差（右）を示しています。今年の降雨量は平年を大きく下回っています。

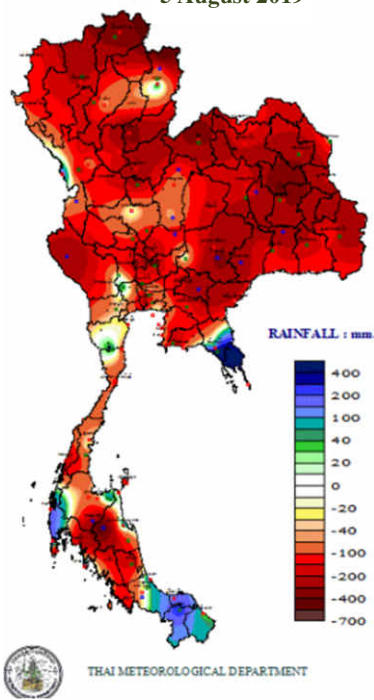
TOTAL RAINFALL FROM 1 JANUARY

TO 5 August 2019



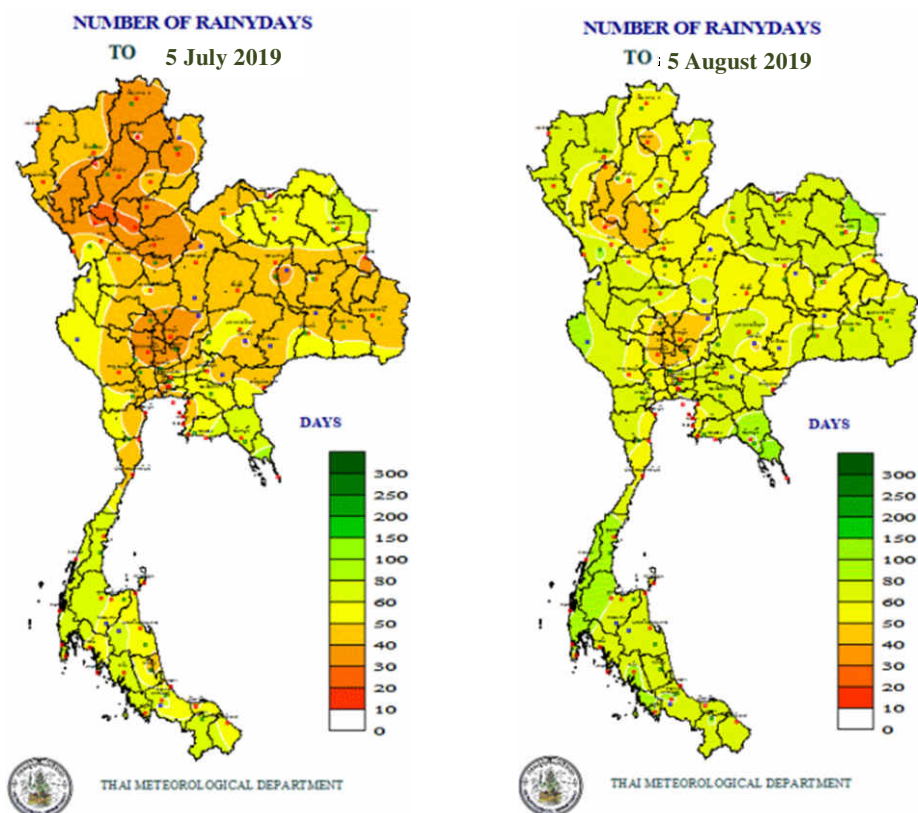
DEPARTURE FROM NORMAL

TO 5 August 2019



降雨日数

- ✓ 下図は 2019 年 1 月 1 日～7 月 5 日（左）、1 月 1 日～8 月 5 日（右）の降雨日数をそれぞれ示しています。
- ✓ 同図によれば、タイ北部、北東部、西部および中央部で 8 月の降雨日数が増加しています。



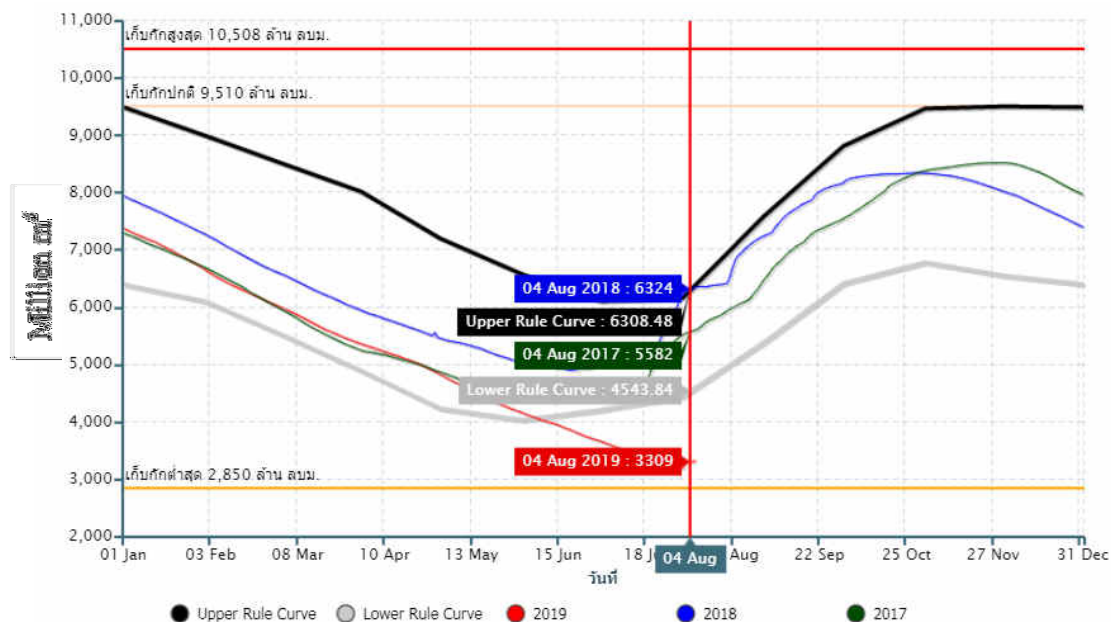
洪水関連情報

8/4【北部：Phayao 県】豪雨により Mae Lao 川の堤防が決壊し氾濫。近隣の住宅地が浸水。

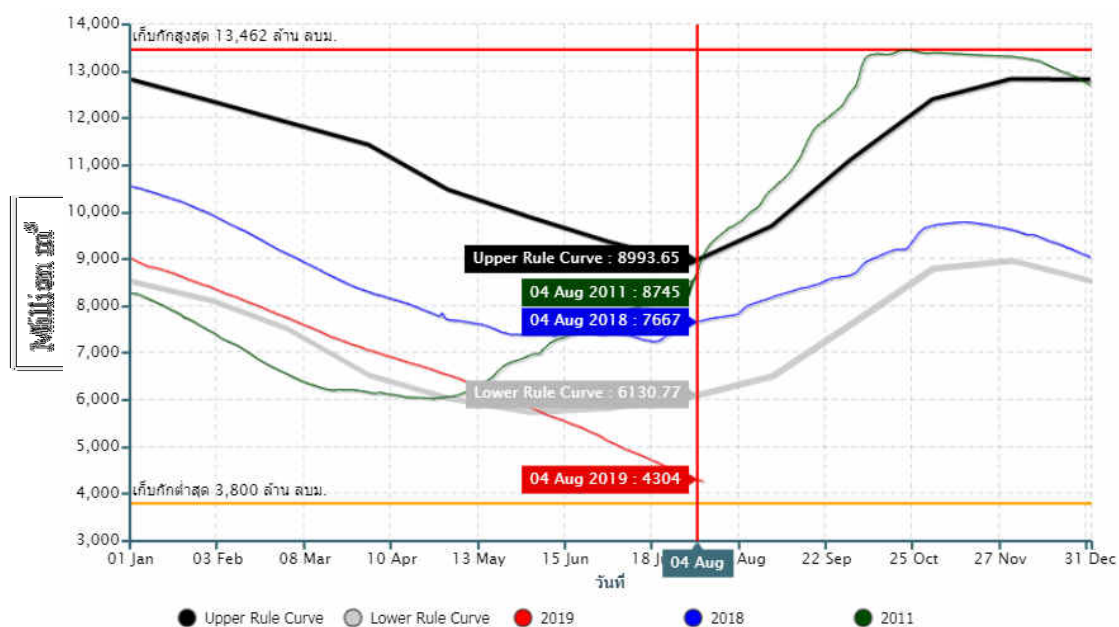
8/5【北部：Mae Hong Son 県】豪雨により鉄砲水が発生。Mae Ngao 国立公園周辺が 1km の範囲で 1m 浸水。

ダム貯水量 (Sirikit ダム、Bhumibol ダム)

貯水量 : Sirikit ダム (貯水率 35%)



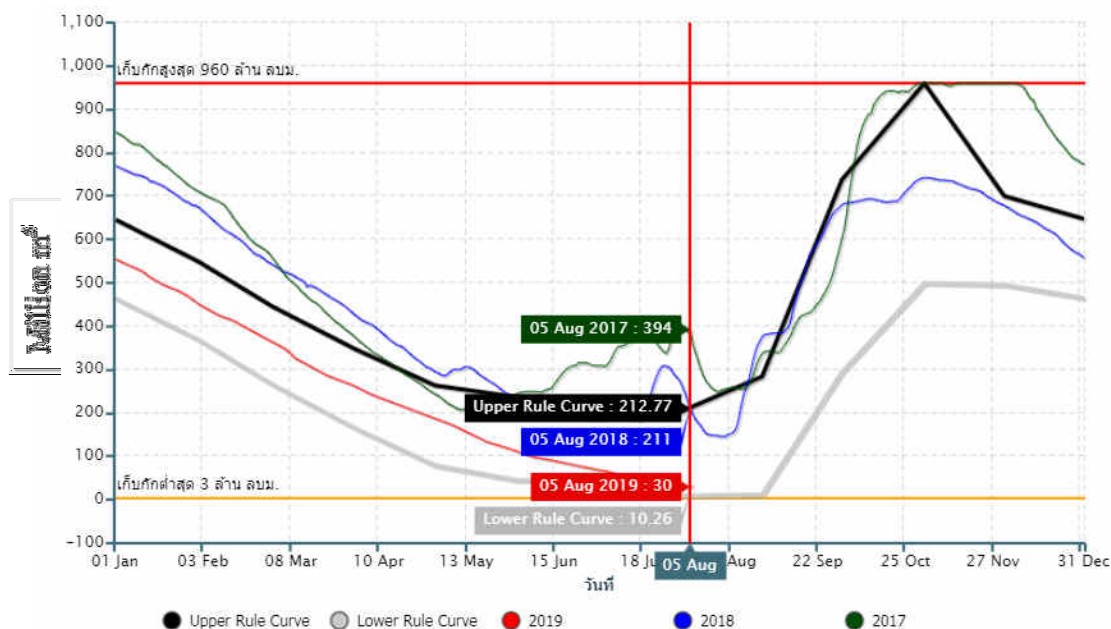
貯水量 : Bhumibol ダム (貯水率 32%)



Sirikit ダム、Bhumibol ダムともに貯水量は6月から更に減少し、貯水率はそれぞれ35%、32%です。

ダム貯水量 (Pasak ダム、Kwaenoi ダム)

貯水量 : Pasak ダム (貯水率 3%)



貯水量 : Kwaenoi ダム (貯水率 12%)



Pasak ダムの貯水率はわずか3%であり、過去 20 年間で最も少ない貯水量となっています。Kwaenoi ダムの貯水率も 6 月から 8%減少しています。

チャオプラヤ水系の河川水位（チャオプラヤダム上流：2019年8月5日時点）

いずれの観測地点も”Normal（洪水危険なし）”の状態です。

Water Situation in the Chao Phraya River
5th August 2019



【備考】

①河川の中に示されている黒文字の数値：河川流量（m³/sec）

②上記①の近くに示されている括弧付きの数値：当該地点の限界流量（①の流量が②の流量以上となった場合、洪水が発生）

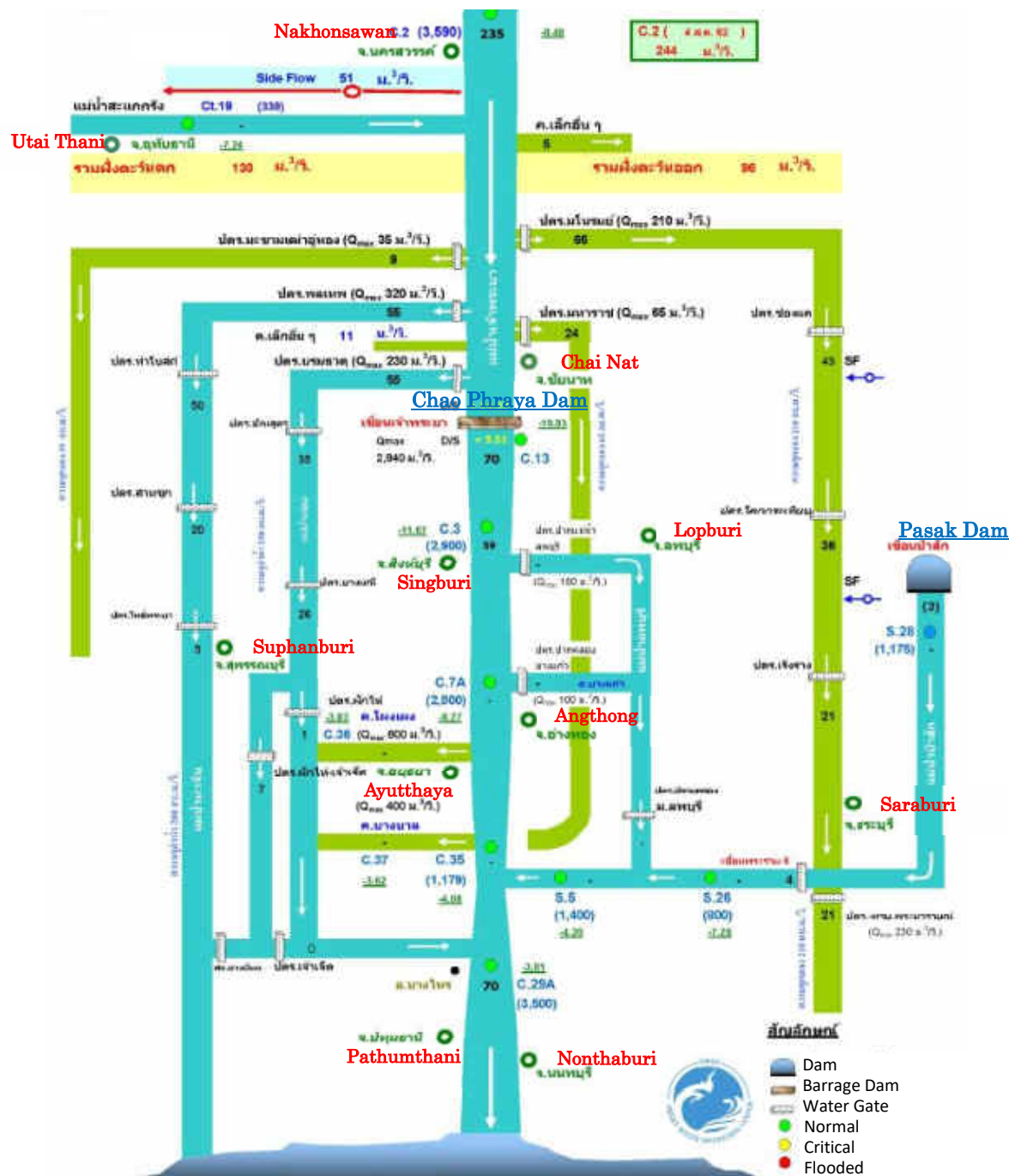
③上記②に付随する「アルファベット+数値（例：N.67）」：観測所の名称

④緑文字・－（マイナス）付きの数値：堤防天端から河川水位までの距離（0 になった場合、洪水が発生）

チャオプラヤ水系の河川水位（チャオプラヤダム下流：2019年8月5日時点）

チャオプラヤ川上流からの流入量は6月から半減しており、いずれの観測地点も”Normal（洪水危険なし）”の状態です。

Water Situation in the Chao Phraya River 5th August 2019



【備考】

- ① 河川の中に示されている黒文字の数値：河川流量（ m^3/sec ）
- ② 上記①の近くに示されている括弧付きの数値：当該地点の限界流量（①の流量が②の流量以上となった場合、洪水が発生）
- ③ 上記②に付随する「アルファベット+数値（例：N.67）」：観測所の名称
- ④ 緑文字・－（マイナス）付きの数値：堤防天端から河川水位までの距離（0になった場合、洪水が発生）

参照

https://www.tmd.go.th/monthly_forecast.php

<http://www.arcims.tmd.go.th/dailydata/yearRain.php>

http://www.thaiwater.net/DATA/REPORT/php/rid_lgraph3.php?dam_id=19

<https://www.bangkokpost.com/thailand/general/1715675/farmers-reel-as-rains-hit-40-year-low>

http://water.rid.go.th/flood/plan_new/chaophaya/Chao_up.php?cal2=05082019

http://water.rid.go.th/flood/plan_new/chaophaya/Chao_low.php?cal2=05082019

<https://www.bangkokpost.com/thailand/general/1719759/drought-fear-eases-after-heavy-rain>

<https://www.thaipost.net/main/detail/42651>

http://nwnt.prd.go.th/CenterWeb/NewsEN/NewsDetail?NT01_NewsID=TCATG190803115612736

https://www.khaosod.co.th/breaking-news/news_2772066

<https://www.thairath.co.th/news/local/1630886>

<http://water.rid.go.th/flood/flood/weekreportnew.pdf>

<https://www.prachachat.net/public-relations/news-329677>

MS&AD インターリスク総研株式会社は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメントに関する調査研究およびコンサルティングを行う専門会社です。タイ進出企業さま向けのコンサルティング・セミナー等についてのお問い合わせ・お申込み等はお近くの三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

MS&AD インターリスク総研（株） 総合企画部 国際業務グループ

TEL.03-5296-8920

<https://www.irric.co.jp/>

インターリスクアジアタイランドは、タイに設立された MS&AD インシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等における火災リスク調査や洪水リスク評価、ならびに交通リスク、サイバーリスク等に関する各種リスクコンサルティングサービスを提供しております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

InterRisk Asia(Thailand) Co., Ltd.

175 Sathorn City Tower, South Sathorn Road, Thungmahamek, Sathorn, Bangkok 10120, Thailand

TEL: +66-(0)-2679-5276

FAX: +66-(0)-2679-5278

<https://www.interriskthai.co.th/>

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。
また、本誌は、読者の方々に対して企業の CSR 活動等に役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製／Copyright MS&AD インターリスク総研株式会社 2019